

日 退 教

事務局速報

日本退職教職員協議会

発行責任者 竹田邦明

16-1号 2016年7月12日

(FAX 送信 1枚)

2016年参議院議員選挙を終えて

平和と生活のために、さらに続く運動へ

日本退職教職員協議会 会長 西澤 清

日退教は、日政連「なたにや正義、斉藤よしたか、みずおか俊一」さんを推薦し今回の参院選に臨みました。

那谷屋さん、斉藤さんは当選しましたが、水岡さんは残念ながら次点に終わりました。全体では、現有議席より民進党、社民党などは減らし、自民党、公明党、おおさか維新、共産党は伸ばしました。与党は過半数を、そしておおさか維新・こころを加えた改憲勢力は議席数で3分の2をとりました。

野党共闘でたたかった一人区は一定の成果を上げましたが、(比例区)統一名簿方式までの共闘体制は作れず、与党優勢は崩せませんでした。民進党は、前回(13年)の当選数は17議席ですから前回より増やしたことになります。しかし、今回の選挙でも13年参院選大敗の影響は免れませんでした。

今回の選挙では若い人が勝手連的に機動力をもって、こちらの陣営に参加していたのが新しい目として際立ちました。そのことが、無党派層の支持政党が自民党と民進党が同率であったことを表しているのではないのでしょうか。また、与党側の選挙を下支えしている運動体が日本会議=日本青年協議会であることが明確になってきました。彼らは「壊憲」を狙っており、地方自治体・議会、地域において草の根を標榜するこれらの組織する運動体に警戒する必要がある、今後、具体的運動でも対峙することになるでしょう。

政策では、与党(自・公)は、憲法には触れず徹底的にアベノミクスの成果を吹聴し、欠点を突かれると「道半ば」と逃げましたが、野党は十分に追撃できませんでした。

しかし、現実には金融政策は行き詰り、景気指数はマイナスとなり、非正規労働者の増大、経済格差・貧困層拡大、子どもの貧困などの由々しき事態を招いています。

日退教は、アベノミクスを私たちの生活のためには極めて有害であるとしてきました。しかし、私たちの陣営でも「金融政策は評価」という誤った考え方が一部にありました。

今次選挙で、安倍政権は憲法改定発議が可能になる勢力を獲得し、彼等のスケジュールどおり、「加憲」、緊急事態条項などを突破口に改憲の機会を狙うとともに、日本を破滅に導くアベノミクスを一層加速させるに違いありません。これからは、戦争に反対し平和を守り切ることと国民の生活破綻を許さないという二つの瀬戸際の私たちのたたかいになります。

私たちの具体的運動は、延期された戦争法の発動、継続審議になった社会保障法案などと共に、実体化が進む「TPP政策」に反対することです。軍事拡大に反対するとともに高齢者・子どもの貧困化を重要課題として、現職と共に、賃上げ、社会保障充実、内需拡大、累進課税強化など希望ある安定した社会を目指すことが大切です。

以上